



## 講演 ①

中央労働災害防止協会  
中国四国安全衛生サービスセンター 所長

## 山岡 和寿 氏

## 中央労働災害防止協会の概要

2019年現在、職員数は全国で350人。本部は東京。事務所は、札幌・仙台・東京（本部とは別）・名古屋・大阪・広島・福岡にサービスセンターを配置。また、名古屋の中部安全サービスセンターは富山に「北陸支所」を、中四国安全衛生サービスセンターは高松に「四国支所」を配置しています。

# みんなんで安全確保、 安全職場ヨシ！

## 労働災害ゼロをめざして活動

ご安全に！「中央労働災害防止協会中国四国安全衛生サービスセンター（中災防中四国センター）」の所長を務めさせていただいております山岡です。

私は「おはようございます」や「お疲れさま」の代わりに、「ご安全に」とあいさつすることにしています。

このあいさつを知らない方はとまどわれるかもしれませんが、「ご安全に」とあいさつされたら「ご安全に」と返していただけだと思います。

私たち中央労働災害防止協会は、悲惨な労働災害をどうにかゼロにしたいとの思いで、働く人の命を守るための情報発信をはじめ、事業主の方々の自主的な労働災害防止活動を促進し、働く人々の安全と健康を確

保するための総合的活動を行っている公益目的の法人です。

今回のテーマである労働災害は、ある日、まさに突然、人生にピリオドが打たれます。私たちは、生活のため、社会貢献のため、自己実現等のため、毎日一生懸命働いています。どうしてケガを負ったり、死んでしまったらしなければならいのでしょうか？ あまりにも理不尽で不条理です。皆さんも同じ思いでしょう。

企業にとっても、重篤な労働災害の発生は深刻です。貴重な人材のかけがえない命が失われることは、経営にとっても大きなマイナスであり、職場のモチベーションの低下を

招き、企業イメージにも大きなダメージを与えます。こうした労働災害を食い止めるために、中災防として、三旗の活用をはじめ、教育活動や講演、危険予知訓練や作業環境測定など、計画的かつ継続的な取り組みが不可欠だと考えています。今回は、安全衛生の基本である、三旗の活用、コミュニケーション、指差呼称を中心にお話しさせていただきます。

## 1万分の1と人生の全て

安全は人類の願いです。

とある従業員1万人規模の事業場。その勤労部長のエピソードで



す。部下の1人の男性社員は奥さんと、かわいい盛りのお子さん2人のお父さん。4人家族で幸せな日々を送っていました。ある日、労働災害でこの男性社員は、短い生涯を終えられることとなりました。

部長は通夜に参列。ありとあらゆる言葉を駆使して1時間、お悔やみを言われたそうです。その間、奥さんはただ黙ってうつむいたまま、涙を流していました。部長は目を改めて出直して来ようと思い、席を立たれようと思いました。

その瞬間、奥さんが初めて口を

開けました。「部長さん、あなたの事業場には従業員が何人いますか？」と尋ねられたので、部長は「1万人です」と答えました。すると奥さんは、「あなたは1万分の1を失っただけなのですね。私は人生の全てを失いました」と泣き崩れられたそうです。

それまで労働災害を「減らそう」という思いで自身の職務と向き合っていたかもしれません。決して間違っていない、正しい向き合い方でした。しかし、実際に労働災害が減っても、それがゼロではない以上、必ずそこ

に犠牲者が存在します。

労働災害は「減らす」のではなく「ゼロ」にしなければならぬと、固く心に誓ったそうです。この事業場は安全衛生に一段と力を入れ優良事業場になりました。

### レスキュー隊員に学ぶ

私は現在66歳。1976年（昭和51年）に中災防に就職して以降、40年以上、この仕事を続けています。「40年以上も同じ仕事を続けてきたのだから、わからないことはないだろう」と思われがちですが、実は今でもわからないことがたくさんあります。

特に、基本的なことであるにも関わらず、59歳までわからないことが1つありました。あらゆる人命救助活動に対応するレスキュー隊は、消防のエリートであると同時に、最も命の危険と隣り合わせの職務です。子供が見ても「あの仕事は危ないよね」と思われている職業です。ところが、レスキュー隊員がケガをしたとか、殉職したといったニュースはあまり耳にしません。これが非常に不思議でした。若い時オレンジの制服で活躍された元レスキュー隊員の方に話を伺うことができました。な

ぜ、レスキュー隊員の事故や殉職のニュースがほとんどないのか、その理由を訊ねました。すると3つの理由を教えてくださいました。

1つは「情報」です。119番の第一報を聞いただけで、その火災現場でこれから起こり得る事象はすべてわかるそうです。なぜなら彼らは、普段から防火査察を実施して、常に正確な情報を把握しているからです。最初に言われたのは「知らないことはない」とのことでした。

2つ目は「技術」です。皆さんも、レスキュー隊がロープ技術・ドライブ技術・ジャッキ技術などの訓練をしている様子を、テレビでご覧になったことがあると思います。どのような状況であっても、人の命を守る事が可能な高度な技術を、彼らは日頃から磨いています。次に言われたことは「出来ないことはない」でした。

3つ目は「ルール」です。レスキュー隊員が事故現場や火災現場で、万が一、ケガをしたり、命を落としたりした場合、人の命を守ることはできません。だから彼らは、誰かが見ていようが、見ていまいが、決められた手順・ルールは決められた通りに確実に実行します。最後に

言われたのは「やらないことはない」でした。  
つまり、「知らなかった」「できなかった」「やらなかった」ことがないよう、日々の職務を全うすることが、プロの領域であるとおっしゃっていました。

皆さんは「三旗（安全旗・労働衛生旗・安全衛生旗）」はご存知だと思います。駅のホームに安全週間は「安全旗」、労働衛生週間は「労働衛

生旗」を掲げていただいています。そして、労働衛生旗の白十字の中に、安全旗の緑十字が描かれているようなデザインの旗が「安全衛生旗」です。私が中四国センターの所長に就任した2008（平成20）年、当時の中四国9県の労働基準協会（連合会）

の協力を得て、「三旗掲げかえ運動」をスタートしました。どのような運動かというと、安全週間の準備期間及び安全週間には安全旗、衛生週間の準備期間及び衛生週間には労働衛生旗、それ以外の期間は安全衛生旗を、事業所で掲げていただき、三旗

### 三旗掲げかえ運動が 当たり前となる社会を

#### ● 三旗の知名度

	安全旗	労働衛生旗	安全衛生旗
見たことがある	80～100%	0～数名	50～60%
旗の名前を言える	10～20%	1～2名	5～10%

- ・各講演会時に中災防管理士が三旗の現物を提示しての挙手方法による。
- ・旗の名前として質問しても、安全旗をただ「りょくじゅうじ」（マーク）と呼称する者、あるいは誤って「みどりじゅうじ」と発音する者が多い。
- ・出席対象者によってこれらの数値は変化する。

#### ● 三旗掲げかえ運動の目的

重篤な労働災害が発生すると、貴重な人材“一人一人かけがえのない人”を失うこととなり、企業経営にとっても大きなマイナス要素となります。労働災害を食い止めるためには、教育活動、講演、危険予知訓練、作業環境測定などの計画的かつ継続的活動が不可欠です。

しかし、主要な労働安全衛生活動のひとつである三旗の活用方法や安全週間準備期間及び本週間、労働衛生週間準備期間及び本週間の開催時期は知られていない場合があります。人間は五感の「見ると聞く」で、大半の情報を収集することから、三旗の掲げかえを通して毎年の安全週間や労働衛生週間を「見ると聞く」で再認識していただき、三旗も重要な労働災害防止のツールであることを関係者に周知し、計画的かつ継続的な労働災害防止活動に役立てていただくことを目的とします。

#### ● 三旗掲げかえ運動開始と掲げる期間

運動開始時期	平成21年度4月よりスタートし以後毎年繰り返す
安全旗	6/1～6/30・7/1～7/7
労働衛生旗	9/1～9/30・10/1～10/7
安全衛生旗	上記以外の期間

#### ● 三旗掲げかえ運動の方法

- ・三旗を掲げかえる担当者を決める。
- ・上記期間に三旗を会社のポール、会議など複数の人が集まる場所に掲げかえる。
- ・三旗を掲げかえたら参考資料を基に、必ず朝礼などで安全週間準備期間及び本週間、労働衛生週間準備期間及び本週間になった旨を全員に周知する。
- ・各週間の実施要綱などを関係者に周知し、労働災害防止活動の基礎とする。
- ・参考資料などを基にして、三旗の持つ意味を周知する。

#### ● 三旗掲げかえ運動に望まれる効果

労働災害防止活動の新たな切り口として活用できる。

- ・最先端で仕事をしている方たちに対しても三旗の重要性が理解される。
- ・三旗の掲げかえを行うことで、事業場内の管理体制を動かすことのツールの一つにすることができる。
- ・三旗が労働災害防止のツールであることが理解される。
- ・安全週間準備期間及び本週間、労働衛生週間準備期間及び本週間のより一層の効果が期待できる。等々

### 安全旗



初の安全週間のシンボルマークとして大正8年に提案され、昭和2年10月の内務省社会局全国工場監督官主任会議の席上で国としても安全運動のシンボルマークとすることが了承され、広く安全週間など安全に関する行事の際に掲揚されるようになりました。十字は西洋では仁愛を意味し、東洋では福德の集まるところを意味するそうです。

### 労働衛生旗



衛生管理者制度が発足し、全国労働衛生週間が催され労働衛生活動が活発になってきた昭和20年代の後半に、衛生管理者の中から労働衛生を象徴するマークを求める声が出て、昭和28年労働省が公募をして緑地に白十字を中央に配した労働衛生を象徴する旗が制定されました。その後、全国労働衛生週間など衛生に関する行事の際に掲揚されるようになりました。

### 安全衛生旗



昭和30年頃から、安全と労働衛生は密接な関係にあるものとの考えが強調されるようになり、中央労働災害防止協会が公募をし、安全と衛生を一体のものとして強力に推進するためのシンボルマークとして、昭和40年に安全衛生旗が制定されました。

の提唱と周知を図る標記運動です。

子どもたちは就職してから初めて、労働災害について勉強することになります。しかしもっと早い時期、子どものときから働く人の命を守ることを勉強する機会が与えられていたらどうでしょうか。

今も、日本では年間50万〜60万件の労働災害が発生し、不幸にして命を落とされる方は約1000人もいらっしゃると思います。これを、なんとしてもゼロにしたい。各職場で安全週間には安全旗、衛生週間には労働衛生旗と、旗の掲げかえが日本中で行われる、そのような社会をつくりたいとの思いで、この三旗掲げかえ運動を始めました。

### 教育とルールの遵守が命を守る

ここで、皆さんに考えていただきたいことがあります。まず最初に「赤ちゃんの命は誰がどうやって守るのか？」ということです。

私には孫が6人います。その子が今まで育っていくプロセスを見ていて改めて思ったことは、親が育児を放棄したら、赤ちゃんは間違いなく生きられないということです。つまり、「赤ちゃんの命」は「親」が「育児」で守るのです。

次に、その子が学校へ通うように

なりました。では、その子たちの命は誰が守るのかを考えてみましょう。親や先生は子どもを教育します。そして、教育を受けた子どもたちは教わったルール、交通ルールはもちろん、「知らない人にはついていかない」といったルールを守ることで、危険を避け自分の命を守るのです。

その子が大きくなり皆さんの会社に就職したとします。親や先生に相当するのは職場の先輩、上司である皆さん方です。法律用語では事業者となっています。そして、教育を受けた新入社員は、自分で安全のルールを守り、自分自身の命を守るのです。

教育を受け、ルールを守る。この2つが両立しない限り、労働災害はなくなりません。

### 縦・横・面の「コミュニケーション」

労働災害が発生した際、多くの事業場から「コミュニケーションが不足していた」という声が多く聞かれます。

コミュニケーションには、「縦のコミュニケーション」「横のコミュニケーション」「面のコミュニケーション」の3種類があります。

### 3つの組織コミュニケーション 活性化のポイント

#### ● コミュニケーションの種類

- ・縦のコミュニケーション
- ・横のコミュニケーション
- ・面のコミュニケーション

#### ● 個々のコミュニケーション

挨拶（おはようございます。お先です。お疲れさまでした。ご安全に等々）をしていますか？

#### ● 3つの褒める

- ・「結果」を褒める
- ・「プロセス」を褒める
- ・「当たり前のこと」でも褒める

ションができた

ら、今度は面の

コミュニケーション

が必要と

なります。すな

わち、職場・現

場レベルにおけ

るコミュニケーション

です。職

場のリーダーが

中心となり、指

差呼称の徹底や

具体的な取り組みが決まります。こうしてこの会社は、労働災害ゼロに向けて進み始めるのです。

### あいさつ褒めることの重要性

縦・横・面のコミュニケーションは、組織にとって非常に重要です。そして、この3つのコミュニケーションを実現するには、基本中の基本である「あいさつ」、個人同士のコミュニケーションが必要です。

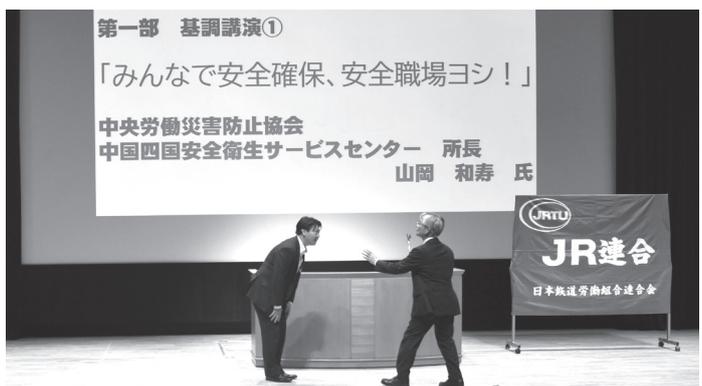
誰でも、あいさつされると気分がいいものです。逆に、知った人なのにあいさつされないと気分を害します。つまり、あいさつは自分が気分よくなるために「してもらおう」ものではなく、相手に気分よくなってもらおうため、自ら率先して「す

る」ものです。

以前、私は倉敷駅のホームで乗り換え列車を待っていました。朝の早い時間で、ホームには私1人でした。やがて、線路を点検されていた人たちが線路の上を岡山方面から歩いてこられました。すると、そのお2人は私を見て、「おはようございます。出張お疲れさまです」とあいさつされました。心から嬉しくなりました。相手に喜んでもらうと、こちらも嬉しく思える。そんな人間として当たり前の気持ちだが、3つのコミュニケーションの活性化につながります。

もう1つ大切なことは、「褒める」「褒められる」ことです。結果を出した人には、その結果を褒めてあげてください。上司が部下を褒め、部下が上司を褒めることも大切です。例えば労働災害ゼロを達成したとします。上司は部下に「みなさんの努力で目標達成が出来、ありがとうございます」、部下は上司に「良い経験をさせていただきました」といったようにです。

一方で、結果がついてこないときもあります。それでも、努力をしている人にはそのプロセスは、きちん



ステージでは聴講者を交えたロールプレイングが行われ、コミュニケーションを積極的にとることの大切さを共感し合った。

と褒めてあげましょう。

そして、特に若い人に対しては、当たり前なことでも褒めてあげてください。褒めるとは、相手を認めることにもつながります。上司や先輩に認められることは、若い人たちの仕事に対するモチベーションを高め、さらなる成長を促します。

### 何気ない指差し意外な効果

すでに産業界では「指差呼称」が定着しています。皆さんは、この指差呼称は効果があるとお考えでしょ

具体的には、経営者や管理者がいらつ

決まります。例えば、社長が「我が

言したとします。会議に出席した役員や各セクションの部長らに、社長の思いが伝わります。これが縦のコミュニケーション。すると次に、部長全員が参加する部長会議が開催され、それぞれの部の役割分担について話し合います。総務は研修会の実施、経理は予算措置といった感じ

す。これが横のコミュニケーション。つまり、縦のコミュニケーションを具体化するためには、横のコミュニケーションが必要になります。

うか。

私は2004（平成16）年に、こ高松の四国支所の支所長として赴任しました。

実は当時、指差呼称はあまり役に立たないと思っていたのです。だから、いくら勉強しても形だけ。上辺の知識で理解したつもりになっていました。それがある先輩に見透かさされ、「社会貢献するには本気で勉強しろ」と言われ勉強し直したところ、指差呼称というのは実に興味深い活動であることが理解できました。実際、鉄道総研の研究論文にも、失敗が6分の1になり、視線停留効果など多くの効果があると紹介されています。

以前、孫たちをマイカーに乗せて、広島市内に遊びに行ったことがあります。地下の駐車場にマイカーを停め、孫の1人が階段を駆け上がって地上に出ると、そこには高層ビルが建っていました。私が追い付くと、その孫は「じいちゃん、高いビルだね」といって、その高層ビルを指差しました。すると、よちよち歩きの孫までも、その高層ビルに目を向けてました。これが、指差呼称の原点です。

私はというと、孫たちに向かって

「じいちゃんが何階建てなのか数えてやろう」といって、ポケットに手を突っ込んだまま数えたのですが、12〜13階まで数えたらわからなくなってしまう。何度も繰り返しもうまくいかない。そこでポケットから手を出して、1階ずつ指を差しながら数えてみると、今度はカウントミスもなく、最上階まで数えることができました。

指差しは、ふらふらしている目線を止める効果があるので、指差しを行うのです。これを「視線停留効果」と呼びます。

### 「焦り」は人為的ミスの出発点

私の家と子どもの家は、車で20分ぐらいの距離にあります。あるとき、連絡の行き違いで子どもは私の家に、私は子どもの家に向かって車を走らせていました。すると途中で、助手席に座っていた家内が、子どもの車とすれ違ったことに気付き、慌てて私にそのことを伝えました。私も慌てて、Uターンしようとしてコンビニの駐車場に入ろうとしたとき、後輪が縁石に乗り上げ、車の燃料タンクをへこませてしまいました。

前方、人・車・車両なし「ヨシ！」、  
後方、二輪車・人・車両なし「ヨシ！」

と安全を確認し、方向指示器を出して、前輪縁石クリア・後輪縁石クリア「ヨシ！」と、いつも通り平常心で確実に運転していれば、このようなミスは犯しませんでした。人間は焦ると失敗します。指差呼称には、こうした「焦る心」を抑える「焦燥反応抑制効果」もあるのです。

### 指差呼称の4つの効果

みなさん掛算はどうやって覚えましたか？ 小学生の頃、白い大きな紙に1の段から9の段までを書き、それを壁に貼って声に出して憶えたことがあると思います。あれは、「1×1＝1」に視点を止める「視線停留効果」、それから焦らず確実に憶える「焦燥反応抑制効果」に加え、「声に出す」ことが大きなポイントです。実は、声に出すという行為には、記憶を強化する効果があります。これを「記憶強化効果」と呼びます。そのお陰で、誰もが九九の掛け算を今でも憶えています。

以前、ドライブに出かけたとき、道路のアスファルト舗装工事が行われていました。「最大15分待ち」との看板があったので、誘導員とお話をしました。

私が「15分間で何台ぐらい車がく

るのですか？」と訊ねたところ、「3〜5台です」とのこと。「楽がいいですね」と話したら、「それでも、私たちは絶対に接近車両を見逃してはいけないから・・・ちよつと待ってください」とおっしゃって、「登り車線、接近車両なし、ヨシ、下り車線、接近車両なし、ヨシ」と指差呼称をしました。それから私との会話に戻ります。そして一定の時間が経つと、会話を中断して指差呼称。それを工事の間、15分に数台しかこない車の接近を、確実に発見するために、ずっと続けているのです。

どうやって集中力を維持しているのか訊ねたところ、「接近する車」ではなく、「車が接近していない」ことを確認すると意識していれば、集中力は持続し、眠気も起きないそうです。これは「覚醒効果」と呼び、眠たくなるのを抑える効果も指差呼称にはあります。

### 声に出しての読み合わせがミスを未然に防ぐ

私たち中災防にとって、ファックスの誤送信は重大事件です。そのため、中災防ではA4のファックス1枚を2人で送ることとなっています。恐らく、皆さんには信じられないで



しようが事実です。

例えば、私が誰かにファックスを送るとします。どうやって送るかといいますが、最初に私がファックス番号を声に出して読み上げ、隣の職員がその番号をファックスに入力します。次に、入力した職員がファックス番号を読み上げ、私がファックスのディスプレイに表示された番号を確認。間違っていないければ2人で送信ボタンを見て、「送信完了よし」と声を出して終了。ファックスを送るのも、ちょっとした大仕事です。ですが、2人以上で読み合わせをし

ないと、間違いを見つけることにはできません。

ある事業場で、「今日は車両が多いため、いつもの左側通行を右側通行に変更する」との作業指示がありました。もし「今日は車両が多いから、いつもの左側通行」と前半しか読まなかった場合、左右が逆転することが考えられます。だから必ず、最後まで読まなければいけない。それだけ読み合わせは大切であり、皆さんも絶対にやっていたいただきたいと思っています。これを「エラー気付効果」と言っています。一度研究論文を読

むと参考になると思います。

### 「偶然のゼロ」でなく「努力のゼロ」へ

ある人から「うちの職場は整理整頓ができているので、指差呼称なんか不要です」といわれたことがあります。しかし、人間は失敗する動物です。だから、いくら整理整頓をしても、事故の可能性はあります。

例えば、ある整備工場で先輩が後輩に28ミリのスパナを持ってくるように指示をしたが、後輩は間違えて31ミリのスパナを持ってきてしまう。これは、いくら整理整頓ができていても起きてしまうミスです。こうしたミスを防ぐには、「28ミリ確認ヨシ」「28ミリ渡しヨシ」「28ミリ受け取りヨシ」「28ミリ返却ヨシ」と声に出して確認するしかありません。

整理整頓はルールであり、ルールは絶対に守らなければなりません。

ルールとは、私たちの先輩が命をかけてつくった約束事です。だからルール違反をすると、早ければ次の瞬間、遅ければ10年・20年先かわかりませんが、いつか必ず事故が起きます。しかし完璧にルールを守っていても、私たちは失敗をする動物で

す。だから、二重、三重の安全確保のため、指差呼称が必要なのです。

よく「指差呼称をやらなくても事故は発生していない」と言われますが、これはいつ途切れるかわからない「偶然のゼロ」です。指差呼称で事故が発生しない「努力のゼロ」をお願いします。

仮にあなたが40年、サラリーマンとして働くとしたら、その40年間、もし1度も事故に遭遇しなければ、お客様に優れたサービスを、安価で迅速に提供することが可能となります。これは社員個人に限らず、企業全体の目的です。目的を達成するには、絶対に手段が必要です。その手段が安全確保なのです。ですから、手段である安全確保を抜きにした企業活動なんてあり得ません。そのことを肝に銘じてください。

### 危険を伝えるために必要なのは

とある倉庫には壁面に、高さ1・8メートルのステージが設置されていました。このステージには一応、転落防止措置としてチェーンが張ってありました。ある日、職場のリーダーが作業員たちに「今日はステージの上で荷物の上げ下ろしをするから、転落に注意して作業するように」

参考文献

- 新・産業安全ハンドブック  
中央労働災害防止協会  
平成12年3月30日第1版発行
- 安全衛生運動史  
労働保護から快適職場への70年  
中央労働災害防止協会  
昭和61年12月20日第2版発行
- 安全衛生用語辞典  
中央労働災害防止協会  
平成17年6月10日第1版発行
- 2019年安全衛生手帳  
中央労働災害防止協会  
平成30年8月発行
- 安全の指標 平成30年度  
中央労働災害防止協会  
平成30年5月30日発行
- 労働衛生のしおり 平成30年度  
中央労働災害防止協会  
平成30年8月1日発行

と指示しました。ところが、1人の作業員が転落。ケガをして入院することになりました。

その日の夕方、仕事が終わったリーダーが転落した作業員の見舞いに訪れ「注意するよういったのに、どうして転落した？」と訊ねると、作業員は「気を付けたのですが落ちました。以後はもつと気を付けます」と返答。リーダーは納得して帰っていききました。

この事例の問題点は、「……落ちないように注意……」と具体的な作業方法を言わずに「注意」の単語で済ませていくことです。つまり「注意」とか「気を付ける」という単語を使わず、具体的な作業方法とその作業の危険を伝えることが必要です。

鉄道マンは「格好いい」職業であり続けて欲しい

先般、孫と一緒にJRに乗って来ました。すると、保線作業の方が5〜6人、線路の脇に立って私たちが乗っている列車の通過を待っています。その間、全員が左腕を水平に上げていらつしゃいました。それを見た孫が「じいちゃん、あの人たち格好いいね。あれは何の仕事なの？」と訊ねてきました。

私は「あれは列車を安全に走らせるために、いつも線路をあややつて点検している人たちだよ。でも線路でのお仕事だから、列車と接触するかもしれない。そうなると死んでしまうかもしれない。だから、ちゃん

と列車が来る時間を頭の中に入れておいて、列車が接近する時間になったら皆さん、あのポーズをとるんだよ」と教えました。

安全活動は、子どもが見て格好いい活動です。だから、多くの人に見てもらうことが重要です。

「見せる作業」「見られる作業」というのは、確かに気を使います。高松に赴任していた頃、ガラスのショーウィンドウの中で職人の方が、うどんを打たれている姿をみるたびに、素直に格好いいと思ってい

ました。帽子を被りルール通りの作業を確実に行う姿を、お客様に見てもらうことは、最高の安全・品質確保です。

鉄道マンは、今も昔もあこがれの職業です。理由は単純に格好いいから。なぜ格好いいのかといえば、安全を職業とされているからです。JR連合の皆さんには、これからも安全を最優先する格好いい鉄道マンであり続けていただきたいと思えます。それでは皆さん、ご安全に。

